

ギ」の歌人の歌集が多く見られる。

◇第六卷……昭和二年～六年

『屋上の土』古泉千樫、『春のことぶれ』
積道空、『植物祭』前川佐美雄など。

◇第七卷……昭和七年～十一年

『水源地帯』前田夕暮、『新歌集作品1』
土岐善麿、『シネマ』石川信雄など。

◇第八卷……昭和十二年～十五年

『白描』明石海人、『寒雲』斎藤茂吉、『桜』
坪野哲久、『黒檜』北原白秋、『魚歌』斎藤
史、『歩道』佐藤佐太郎など。

これらの巻では、前田夕暮・土岐善麿の
自由律短歌、前川佐美雄・斎藤史・石川
信雄のモダンリズム短歌の歌集が特に目を引
く。また、ハンセン病という宿痾の中で命
を見つめ、独自の感覚表現に至った明石海
人の『白描』も必読であろう。

◇第十卷……昭和二十一年～二十四年

『葦菁集』『山下水』土屋文明、『寒蟬集』
吉野秀雄、『埃吹く街』『早春歌』近藤芳美、
『小紺珠』『山西省』宮柊二、『白き山』
斎藤茂吉など。

茂吉と共に「アララギ」の中心歌人とし
て長く活躍した土屋文明、戦後短歌の旗手

となった近藤芳美・宮柊二の歌集が多く収
録されている。『山西省』は戦場の惨さを
生々しく伝えて歴史に残る歌集である。

◇第十一卷……昭和二十五年～二十七年

『橙黄』葛原妙子、『薔薇祭』大野誠夫、『水
葬物語』塚本邦雄、『帰潮』佐藤佐太郎、『山
と水と』佐佐木信綱など。

◇第十二卷……昭和二十八年～三十年

『白蛾』森岡貞香、『日本挽歌』宮柊二、『乳
房喪失』中城ふみ子、『早笛』馬場あき子、
『倭をぐな』積道空など。

◇第十三卷……昭和三十一年～三十三年

『まぼろしの椅子』大西民子、『相良宏歌集』
相良宏、『未明のしらべ』富小路禎子、『斉
唱』岡井隆、『玻璃』真鍋美恵子、『空には
本』寺山修司など。

これらの巻には、塚本邦雄・岡井隆・寺
山修司ら前衛短歌運動を牽引した歌人の名
が並ぶ。葛原妙子・森岡貞香ら女性歌人の
躍進、結核を患いながら繊細な作品を残し
た相良宏の歌集などにも注目したい。

◇第十五卷……昭和三十八年～四十五年

『パリケード』一九六六年二月 福島泰樹、
『群黎』佐佐木幸綱など。

◇第十六卷……昭和四十六年～五十四年

『森のやうに獣のやうに』河野裕子、『直立
せよ一行の詩』佐佐木幸綱、『眠鳥記』
伊藤一彦、『メビウスの地平』永田和宏、
『汽水の光』高野公彦、『牧歌』石川不二子、
『バルサの翼』小池光など。

◇第十七卷……昭和五十五年～六十三年

『とこしへの川』竹山広、『水惑星』粟木京子、
『ラビュリントスの日々』坂井修一、『サラダ
記念日』俵万智、『サニー・サイド・アップ』
加藤治郎、『水陽炎』小島ゆかり、『夏空の
権』米川千嘉子など。

これらの巻には、現在活躍中の著名な歌
人の第一歌集が数多く収録されている。好
きな歌人の若き日の作品を読みたいと思っ
た時に、是非おすすぬしたい。

このように、入手しにくい歌集を時代を
追ってまとめて読むことができる『現代短
歌全集』は、現代短歌史の流れを実感でき
る貴重な資料である。内容以外にも、斎藤
史『魚歌』の装幀を棟方志功が担当してい
たり、石川信雄『シネマ』の序を中河与一
が書いていたり、同時代の芸術家や作家
との交友関係が分かるのも興味深い。